

様式1

令和4年度 学校評価表（前期）

学校教育目標	凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成	
a ミッション	学びを探究し、未来を“そうぞう”する生徒の育成	a ビジョン 職員が笑顔で生徒の前に立てる学校 ○生徒が安心して学べ、確実に力を付けることができる学校 ○保護者や地域からも信頼され、任せてもらえる学校 ○教職員がやりがいと喜びをもち、笑顔で取り組める学校

尾道市長立江中学校

評価計画				自己評価			学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					達成値	達成度	評価		イ	ロ	ハ			
凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成	主体性・協働性を育む探究的な学習の推進	○学習内容の確実な定着及び活用 ・知的好奇心を喚起する授業実践 ・新たな価値観を見いだせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員、「探究」に係る年1回以上の研究授業実施</li> <li>各教科1単元以上の単元開発(更新)</li> <li>小中の接続を意識し、9年間を見通した総合的な学習の時間の単元開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 90%</li> <li>② 国差+8P</li> <li>③ 3級(3年)70% 4級(2年)85%</li> <li>④ 12月に公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 78%</li> <li>② 国78P 数60P 理53P</li> <li>③ 3年48名 4級(2年)79名 2年未発表</li> <li>④ 12月に公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 87%</li> <li>② 国9P 数10P 理4P</li> <li>③ 3年112</li> <li>④ 12月に公開</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 9教科の肯定的評価の範囲：68～84% 全平均：78% ・肯定的評価80%以上の教科：4教科 ・関連項目「授業では「できた」「わかった」と感じる項目がある」の肯定的評価の平均値：84% ・学年があるにつれ数値が下がる傾向がある。授業の振り返り場面の工夫と改善が必要であると考える。</li> <li>② 調査対象3教科全て県平均超 ・3教科を通し、資料の解釈の方法や既存の学習の適用に課題があると考え</li> <li>③ 3年生対象者数66名中、受検者61名、3級以上レベル数48名、到達生徒の割合70% ・昨年度比：+4%、下位層の減少は結果に反映したと考える。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートをはじめ、各調査結果から、学校の取組が成果となっていると思います。</li> <li>・アンケート結果の項目から学年による較差が大きいと思われる項目については今後、先生方の指導の工夫等をお願いいたします。</li> <li>・タブレット等を使用する学習も大切であると思うが、活字による学習も大切である。幅広い知識や考え方の基礎となる読書の取組も引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の推進を図る。</li> <li>・室の高い「問い」を設定する力量向上を主眼とする研修の実施</li> <li>・探究的な単元を構想する力量向上のための「単元構想シート」の活用</li> <li>・全国学力学習状況調査をはじめとする、全教員による調査問題の実施と精緻な分析の実施</li> <li>・授業における「振り返り」の場の工夫と「わかったこと、できたこと」「わからなかったこと、できなかったこと」の自覚を促す評価の工夫</li> </ul>	
	人間力を高める教育実践	○「学びの風土づくり」三原則の徹底と深化による「長江プライド」の醸成と自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に企画する活動(挨拶運動や地域貢献活動等)への支援</li> <li>生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度90%)</li> <li>② 教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の問いに肯定的に回答している教師の割合(昨年度100%)</li> <li>③ 生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度74%)</li> <li>④ 生徒アンケートの「自分のよさは、まわりの人から認められていると思う」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度82%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 90%</li> <li>② 100%</li> <li>③ 80%</li> <li>④ 85%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 91%</li> <li>② 100%</li> <li>③ 76%</li> <li>④ 83%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 101%</li> <li>② 100%</li> <li>③ 95%</li> <li>④ 98%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合：1年：90%、2年：90%、3年：92% ・昨年度と比し、全学年90%以上、今後とも、全ての教育活動において挨拶等の意義・意味の継続した指導、特に、評価の在り方を工夫する必要がある。</li> <li>② 生徒が学校以外においても自ら進んで挨拶ができるよう指導と評価の工夫を図る。</li> <li>③ 生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合：1年：77%、2年：72%、3年：79% ・昨年度比+2%、今後、個別面談の実施等を検討していく。</li> <li>④ 生徒アンケートの「自分のよさは、まわりの人から認められていると思う」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合：1年：80%、2年：88%、3年：80% ・今後、該当生徒に適切な生徒理解に係る研修を検討する。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校から不登校や様々な支援が必要な生徒が入学していることも挙げられると思います。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方たちによる専門的な立場の方の力を得ながら今後とも取り組まれることを希望する。</li> <li>○本年度から設置されたスペシャル・サポート・ルームの利用について、それぞれの生徒にとって自己肯定感が高まるきっかけになることを大いに期待しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会活動を主とする特別活動、道徳、総合的な学習の時間等、全ての教育活動をおし、挨拶の意義、意味について指導を継続していく。特に、各行事を実施する際の評価の工夫を図る。</li> <li>○学級活動、部活動指導を通じ、生徒の挨拶に対し、肯定的評価を継続的に実施する。</li> </ul>
	職員が笑顔で生徒の前に立てる職場環境	○働き方改革の推進(業務改善への志向を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の精選(スクラップ&amp;ビルド)</li> <li>複数顧問体制による部活動業務の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 7月あたり時間外勤務時間が80時間超の人数の割合(昨年度0%)</li> <li>② 7月あたり時間外勤務時間が45時間未満の人数(昨年度4名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10%未満(4～12月平均)</li> <li>② 2名以上(4～12月平均)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4.2% (4～7月平均)</li> <li>② 4名 (4～7月平均)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2.4% (4～7月平均)</li> <li>② 200% (4～7月平均)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 7月末時点、時間外勤務時間計平均80時間超人数 対象数19名中8名、目標値を100とした場合の達成度(反転値) ・昨年度に比し、学級に伴う一人あたりの授業時数及び分掌の変化が要因と考える。</li> <li>② 4名の平均時間：29h42m</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のためにも、働き方改革を今後も進めてほしい。生徒のことを考え、先生方が授業、行事、働き方改革に取り組まれている様子がよくわかりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○該当職員へ面談を実施し、個別業務の精選化を図る。</li> <li>○スクラップ&amp;ビルドの視点を導入した提案の決着と研修の実施。</li> <li>○学校環境整備の推進、文書・データ管理の工夫を図りながら業務の省力化の推進。</li> </ul>

【自己評価 評価】  
A：100≦(目標達成)  
C：60≦(もう少し) < 80

B：80≦(ほぼ達成) < 100  
D：(できていない) < 60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。○：自己評価は適正でない。ハ：わからない。

様式2

## 方策進行管理シート

令和4年度 尾道市立長江中学校

短期経営目標	目標達成のための方策	活 動	7月	4月	5月	6月	7月	1月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数	目標数	目標数	目標数	目標数	目標数			
			達成数	達成数	達成数	達成数	達成数	達成数			
○学習内容の確実な定着及び活用 ・知的好奇心を喚起する授業実践 ・新たな価値観を見いだせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員、「探究」に係る年1回以上の研究授業実施</li> <li>各教科1単元以上の単元開発（更新）</li> <li>小中の接続を意識し、9年間を見通した総合的な学習の時間の単元開発</li> </ul>	①各教員1回以上の授業研究を実施する。	①40%	/	1	1	/	①80%	50	50	D
		②知的好奇心を喚起させるような「課題発見・解決学習」の単元開発（更新）する。	②40%	/	1	1	/	②80%	50		
		③公開研究会において実践を市内中学校へ発信する。	③0% (12月に実施)	/	/	/	/	/	③100% (12月に実施)		
○「学びの風土づくり」三原則の徹底と深化による「長江プライド」の醸成と自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に企画する活動（挨拶運動や地域貢献活動等）への支援</li> <li>生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施</li> </ul>	①挨拶運動や地域貢献活動等を、生徒会執行部・専門委員会を核として、主体的に企画・運営させる。	①1回以上企画	/	1	1	/	①3回以上企画	100	100	A
		②行事の際はもちろんのこと、日常生活においても、生徒の主体的な活動に対して肯定的評価を行う。	②職員全員が実施	1	1	1	1	②職員全員が実施	100		
○働き方改革の推進（業務改善への志向を含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の精選（スクラップ&amp;ビルド）</li> <li>複数顧問体制による部活動業務の改善</li> </ul>	①特にPTA行事について、精選・簡素化を行う。	①育友会総会の書面決議	/	1	/	1	①各種説明会の同一日開催	100	100	A
		②部活動業務を組織的に行う。	②業務交代制の実施（複数顧問体制の部）	1	/	/	1	②業務交代制の実施（複数顧問体制の部）	100		

【取組評価】 A：100≦（目標達成） B：80≦（ほぼ達成）<100 C：60≦（もう少し）<80  
D：（できていない）<60